

平成23年9月定例議会での所信表明 — 安丸国勝町長

議会定例会の開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日、ここに平成23年第27回大刀洗町議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位には、公私ともにご多用中にもかかわらずご出席を賜り厚くお礼を申し上げます。

近年、地球温暖化による影響もあり、世界各地で異常気象が続いておりますが、我が国でも熱帯低気圧の相次ぐ発生等により、全国各地で集中豪雨、ゲリラ豪雨などにより災害が多発いたしております。

本年は、例年より梅雨明けが早く、本町においては、今のところ風水害等の大きな災害はありませんが、9月に入り、台風シーズンを迎えますので、水防計画等に基づき万全を期して、住民の皆様の安全・安心に努める所存でございます。

さて、東日本大震災の復旧から復興への取り組みは、わが国の直面する最優先の課題であることはご承知のとおりでございます。

国においては、5月に成立した約4兆円規模の第1次補正予算に次ぐ、東日本大震災の被災者支援や福島第1原発事故への対応を盛り込んだ約2兆円規模の第2次補正予算が7月25日に可決、成立したところでございます。

また、政府は、7月29日、復興基本方針を決定し、復興期間を10年と定め、被災地の土地区画整理や高台への集団防災移転、被災者の就業・就学支援や水産業の基盤整備など、少なくとも総額23兆円規模の復旧・復興事業を実施するとされております。今後は、第3次補正予算の編成等により、被災自治体の早期の復旧・復興を願うものでございます。

わが国の経済は、リーマンショック以降緩やかな回復が続けていると言われておりましたが、東日本大震災からの復興や世界的な同時株安、欧米の債務問題に端を発し、円が戦後最高値を更新するなど厳しい経済情勢に直面いたしております。

政府は、歴史的な円高進行を受け、総合的な緊急経済対策の検討を加速する方針を固め、第3次補正予算に盛り込む予定の円高対策の前倒しを行うとも言われております。

いずれにいたしましても、野田新内閣には、安心して暮らせる社会の実現のため、実効ある対策を進めてほしいと願っているところでございます。

平成22年度一般会計決算につきましては、歳入は60億9,236万円余、歳出は57億6,311万円余となり、実質収支額は3億133万円余、実質単年度収支は6,200万円余の黒字となっておりますが、詳細につきましては、監査委員の決算審査後の12月議会において、報告をさせていただきたいと思っております。

本年度も、5カ月が経過しましたが、菊池小学校耐震化工事などの諸事業も順調に進捗しているところであり、今後とも住民福祉の増進に鋭意努力してまいりたい所存でございます。

さて、今議会には、教育委員会委員の任命同意、病後児保育センター設置条例の制定、重度障害者医療費の支給に関する条例の一部改正、町道の路線の認定、一般会計補正予算及び後期高齢者医療保険・下水道事業の各特別会計補正予算など、いずれも重要な案件を提案いたしておりますので、慎重にご審議をいただき、最後には、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

さて、本定例議会は、現議員による最後の定例会でございます。過去4年間、聡明なる議員各位の御英断と御協力により、諸施策、諸事業を円滑に推進する

ことができたところであり、本町のまちづくり、住民の福祉の向上増進に、日夜を問わず、ご尽力を賜りまして、議員各位に対し、町民を代表しまして、心から感謝と御礼を申し上げます。

今期限りに勇退される議員の皆様にあつては、健康に留意され、今後とも町の発展に御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、9月20日告示の町議会議員選挙に立候補される議員の皆様におかれましては、10月に議場で再会できますよう御祈念申し上げます。

さて、私事になりますが、お許しを頂き、来年1月の町長改選に当たり、所信表明をさせて頂きたいと存じます。

町長就任して3年8カ月余が過ぎましたが、この間、「百年に一度」と言われる経済危機、政権交代と、自治体を取り巻く環境が大きく変化する中、議会の皆様を始め、町民の皆様方の暖かいご支援・ご協力を頂き、これまで行財政運営を行うことができましたことを、先ず、心より感謝とお礼を申し上げます。

顧みますと、大刀洗町では、私が就任する前の数年間は、町の貯金である基金を年間数億円規模で繰り入れて行財政運営を行っている状況であり、このような財政運営を続けていけば、大刀洗町は破綻するのではないかという危機感が町長選挙に立候補した大きな理由の一つでございました。

このため、民間企業の経営経験を活かして、事務事業の見直しを実施し、職員の適正な配置や定数外職員の活用により総人件費を縮減するとともに、保育所の民営化等、行財政改革の取り組みを、スピード感を持って進めてきたところでございます。

おかげさまで、平成20年度からは基金を取り崩すことなく、決算ができたところであり、平成19年度決算と平成22年度決算を比較しますと、この間、16億4千万円余の地方債借入残高を削減する一方、3億2千万円余の基金を積み増し、財政構造の弾力性を測定する指標である経常収支比率も84.4%から77.3%と7.1ポイント改善したところでございます。

また、大刀洗町の行財政を持続可能なものとするためには、働く世代や子どもの数の減少を少しでも緩和させる施策を推進する必要があると考え、これまで保育料の引き下げや学童保育所の整備等、子育て支援の充実を図るとともに、各小学校の耐震化・大規模改修工事や、学校施設のIT化、グラウンド芝生化、防犯灯設置に取り組んだほか、児童・生徒の学力向上を目指し、特別講座の開設、少人数学級教員の配置など、教育環境の充実を図り、将来の大刀洗町を担っていく子ども達の育成に取り組んできたところでございます。

今後とも、健全財政を堅持しながら、『子育て支援や教育環境の充実』、『町民の皆様の健康増進』、『地域コミュニティの活性化』に、重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

また、男女共同参画社会のまちづくりの推進や、高齢者の皆様の生きがいつくり、本町の基幹産業である農業の振興や商工業の振興など、他にも緊急の課題が山積しておりますので、継続的に、鋭意、推進してまいる所存でございます。

平成22年3月に策定した第4次総合計画では、①豊かな自然が息づく環境づくり、②健やかに個性が輝く人づくり、③次代に伝える地域づくりを3つの基本目標として掲げて、各事務事業を推進することとしておりますが、平成30年度の将来像であります『自らが守り育てる豊かで活力あるたちあらい』の実現のため、そして、多くの皆様方に「大刀洗町に住みたい、住んで良かった」と思っただけけるよう、再度出馬を致す所存であります。

議会の皆様方には、今日まで温かいご支援、ご協力を賜りましたが、次回の出馬に当たりましては、今まで以上の温かいご支援、ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。開会にあたってのご挨拶といたします。